

2016/5/23

「わが逃走」舛添

見たくもない近頃のTVニュース。
そこへ飛び込んできた、
人間に対する判断を促すサンプル。
歴史的瞬間に立ち会っているのではないかと錯覚する。
さて、「人間」の定義は？
おそらく、回答者の数だけある。
「ウソと人間とは切り離せない！」も定義の一つと思わせる。

身の回りで、嫌でも日常接する発言・報道・出版本で、
「ウソを削除すると、それら情報は殆ど消滅し、
人間は、人間ではなくなる」ようだ。

ウソは、人間と、まことに相性がよい。

かりに、「ウソをつくな！」と教える者がいても、
「ばれるようなウソはつくな！」の「但し書き」がつく。

ウソをつくには、それなりの準備と工夫と努力が要る。
それ以上に肝心なことは、類まれなる記憶力が欠かせない。
この能力不足を自ら認識していて、
止むを得ず、正直者になっている者も多い。

舛添知事の容貌で連想したのは、
これは、まさに、平成の「弓削の道鏡」では？。
正確には、「**新宿区西新宿の道鏡**」である。
いよいよ、会見は「わが闘争（or 逃走）」の始まりと映る。

さて、暇に任せて、ウソを分類してみる。

① 国家間のウソ

最初に、相手を斟酌せずに、
堂々とウソをついた方が「勝ち名乗り」を上げられる。
近隣諸国では、「ウソをつかないと」、
その国々も独裁政党も成り立たない。
株価が下がるように、「国価」が下落すると信じている。
対する日本は、堂々とウソをつく相手にオロオロと苦慮し、

懸念の表明程度でチョンの繰り返し。

「ウソを製する者が、世界を制する」時代の到来。

② 政治家のウソ

ウソつきに、「社会的地位を与え、さらに金銭を与える」のが、全ての国の政治体制である。

従って、彼らは、

与えられた職務と負託に忠実に実行している。

「ウソについてなぜ悪い？」が心底の舛添式思考方法で、釈明に頑張れば頑張るほど、

その容貌に相応しい、「芋ほり坊主」の墓穴掘りとなる。

ウソがばれた政治家は哀れである。

③ 産業界・経済界のウソ＝組織維持のウソ

燃費偽装などは愛社精神と善意の表れであり、社員と下請けは食わせなければならない。

国交省の厳格な検査もパスしており、

「仮にウソなら、そこへ誘導した共犯者は国交省！」である。

その省庁が、変わり身素早く、被告席から検事席に座る。

問題は、やがては、ばれるようなウソをついたこと。

真実も事実も、ばれたら「ウソ」になる。

さらに、叙勲が遠ざかる。

④ 以下、多々あるがこの辺で。

舛添知事の釈明態度は、心理学者にとっても研究対象であろう。

知人が言うには、病理学的には、

毛の少ないために、太陽からの直射放射能を浴びすぎ、

「公私混同」と「行使混同」で自爆へ。

そこで、知事を代弁して、彼曰く

「全ての責任は太陽にあり、如何せん、制御不能。

都民のことを寝ても覚めても考えている私は、

逃げているのではない。第三者が法的に解明してくれます。」

「いつまでに?」「それは、第三者が決めることです。」

「渡る世間は、ウソばかり」